

第9学年 国語科 学習構想案

日 時 令和7年7月3日（木）第5校時

場 所 9年教室

指導者 教諭 ○○ ○○

1 単元構想

単元名	3 言葉とともに「俳句の可能性/俳句の創作教室/俳句を味わう」（光村図書「国語3」 p 62～68）		
単元の目標	(1)理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、和語、漢語、外来語などを使い分けることを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。〔知識及び技能〕（1）イ (2)俳句の構成や表現の仕方について評価することができる。〔思考、判断、表現等〕C（1）ウ (3)表現の仕方を考えるなど、自分の考えがわかりやすく伝わる俳句になるように工夫することができる。〔思考、判断、表現等〕B（1）ウ (4)言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。〔学びに向かう力、人間性等〕		
単元の評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	①理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、和語、漢語、外来語などを使い分けることを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。（（1）イ）	①「読むこと」において、俳句の構成や表現の仕方について評価している。 （C（1）ウ） ②「書くこと」において、表現の仕方を考えるなど、自分の考えがわかりやすく伝わる俳句になるように工夫している。 （B（1）ウ）	①進んで表現の仕方などを評価し、学習課題に沿って鑑賞文を書いたり俳句を創作したりしようとしている。
単元終了時の生徒の姿（単元のゴールの姿・期待される姿）			
進んで表現の仕方について評価したり、語句や表現を工夫して俳句を創作したりしようとする生徒。			
単元を通した学習課題		本単元で働かせる見方・考え方	
語句や表現を工夫して俳句を創作しよう。		表現意図による語句の使い分けに着目して、語句や表現の仕方を評価したり、俳句を推敲したりすることを通して、言葉への自覚を高めること。	
指導計画と評価計画（5時間取扱い 本時4／5）			
過程	時間	学習活動	評価の観点等 ★は記録に残す評価の場面で「具体的評価規準」
一	1	○リズムや言葉の響きに注意して、「俳句の可能性」の俳句を朗読する。また、俳句の決まり事や形式を確認し、描かれた情景や心情と、筆者が着目した表現や効果をまとめる。	★【思①】（ノート） ○語句の選び方や表現の仕方に着目して俳句を読み、筆者の評価の仕方を捉えている。 【態①】（ノート・観察） ○進んで筆者の評価の仕方を捉えようとしている。
二	1	○「俳句を味わう」から好きな句を選び、表現の意図を考え、表現の仕方を評価して鑑賞文を書く。 ○俳句を評価する際の視点を生徒の言葉から作っていく。	★【知①】（ノート・鑑賞文） ○俳句で使われている語句の意味を理解したり、豊かなイメージを喚起する効果的な語句に着目したりしている。 ★【態①】（ノート・鑑賞文） ○表現の意図や効果を考えるという課題に沿って、鑑賞文を書こうとしている。
三	1	○「俳句の創作教室」に示された作り方を基に、表現を工夫して「ふるさと産山」をテーマにした俳句を作る。	★【思②】（ワークシート・俳句） ○自分の思いや考えがわかりやすく伝わるように、語句や表現を工夫して俳句を創作している。 ★【態①】（ワークシート・俳句） ○表現の意図や効果を考えるという課題に沿って、俳句を創作しようとしている。

四	1 (本時)	○互いの作品を読み合い、語句や表現の工夫について意見交流することで、分かりやすく伝わる俳句にする。	★【思②】(ワークシート・俳句) ○作品を読み合い、意見交流で気づいた表現の工夫を自身の表現に生かし、より効果的な表現を選択し俳句を作っている。 【態①】(ワークシート・俳句) ○進んで自分の考えが分かりやすく伝わる俳句になっているか評価している。
五	1	○句会を開き、互いの作品を鑑賞して感想を交流する。	★【知①】(ワークシート) ○俳句で使われている語句の意味を理解したり、豊かなイメージを喚起する効果的な語句に着目したりして語感を磨き語彙を豊かにしている。

2 単元における系統及び生徒の実態

学習指導要領における該当箇所(内容、指導事項等)	
中学校学習指導要領第3学年 [知識及び技能](1)言葉の特徴や使い方に関する事項 イ [思考力、判断力、表現力等][B 書くこと](1)ウ 「C 読むこと」(1)ウ	
教材・題材等の価値	
俳句は、今日まで継承されてきた日本の代表的な伝統的言語文化の一つであり、世界的にも広く知られた短詩型文学である。本教材では、定型や季語などの約束事を知るとともに、世界で最も短い詩である俳句の豊かな表現力に気付くことで、簡潔な表現に込められた多様なものの見方や感じ方を味わうことができる。また、表現を工夫して俳句を創作する際の作り方のサンプルと、作った俳句を持ち寄って開く句会の手順も示されており、批評し合うことで、友だちの作品から考えたことを自分の作品に活かす学習に適した教材である。	
本単元における系統	
中1年「空の詩三篇」「詩の創作教室」 詩の言葉を読み味わい語感を磨き、表現の効果について考える 中2年「短歌に親しむ」「短歌の創作教室」「短歌を味わう」 情景や心情を描写する語句に着目し語感を磨き、表現の効果について考える 中3年 「和語・漢語・外来語」 時代や世代による言葉の変化について理解し、適切に使い分ける 中3年「俳句の可能性」 「俳句の創作教室」「俳句を味わう」 表現意図による語句の使い分けに着目し語感を磨き、表現の仕方を評価する 中3年 「言葉の釣り糸を垂らす」 感覚や概念を表す語句・表現の幅を広げる	
生徒の実態(単元の目標につながる学びの実態)	
■本単元を学習するにあたって身に付けておくべき基礎・基本の定着状況(県学力状況調査の結果より)	
項目	正答率%(県正答率)
自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。	61.5 (50.2)
情報と情報との関係について理解し、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。	46.2 (31.3)
自分の考えを明確にして書いている。	76.9 (56.7)
■考察	
自分の考えが伝わる文章になるように工夫したり、自分の考えを明確にしたりして書くことは、概ねできている。 俳句の創作は、日々の生活に対する意識を高め言語感覚を鋭くする。五・七・五の制約された韻律を体験し、省略のレトリックを学ぶことで、言語表現への意識を高め、自分の思いや考えがわかりやすく伝わるような、語句や表現を工夫した俳句の創作につなげたい。	

3 指導に当たっての留意点

主体的に学習に取り組み、考えを深める子どもの育成

【柱① 実態分析をもとにした授業改善の視点から】

重点1 自力で情報を取り出す力を育む…課題把握の場面で学び方を身につけさせる授業づくり

○課題解決に取り掛かる前に、方法を全体で明らかにし、学び方を選択したり、いくつか試したりできるようにする。また、伝え合う場面では、自分が考えたことと共に方法や感想を述べるようにする。

重点2 「まとめ」で自分の学びを確認する…「学んだこと」を自分の言葉で明らかにする授業づくり

○まとめや振り返りを全体に紹介することで、他者の学びから新たな気づきを得たり、自分の学びを深めたりすることができるようにする。

【個人テーマ ～課題が達成できた（できなかった）根拠を、生徒自身が明らかにできる授業づくり～の視点から】

○導入で「やってみせる・一緒にやる」ことを重視しながら、課題を提示することで、確実に全員が「できる」ようにする。

○課題が達成できた（できなかった）根拠を、自分の言葉で明確にする視点をもって振り返りを行い、それを蓄積していくことで、学びを深めていけるようにする。

【人権が尊重される授業づくりの視点から】

※「ぶ」1人学びの場面では、1人・ペア・先生と等、学習形態を選び、全員が自分の考えをもてるようにする。

※「や」伝え合う場面では、自分の考えと比べながら友達のことを聞くことで、違う意見を受け止められるようにする。

※支持的風土を醸成することで、自分の考えを伝え合えるようにする。

4 本時の学習

(1) 目標 俳句作品を読み合い、表現の工夫について意見交流することで、分かりやすく伝わる表現に見直すことができる。

(2) 展開

過程	時間	学習活動 (◇予想される生徒の発言)	指導上の留意事項 (学習活動の目的・意図・内容・方法等)
導入	5分	1. 前時の学習を想起するとともに、学習の目標を確認する。 ◇鑑賞文を書いた後に、クラスのオリジナルの評価の視点を作ったなあ。	○学習活動の進め方と手順を具体的に示し、確認する。 ○小グループ交流では、互いに助言し合いながら表現の仕方を考える場だと確認する。 ○生徒の意見から作った俳句を評価する際の視点を確認する。
う		【めあて】表現を吟味し、自分の俳句をよりよいものに仕上げよう。	
ぶ	35分	2. 目標の達成に向けて活動する。 ①自身の考えを持つ。 ◇季語選びについての助言をもらいたいなあ。 ◇字余りにならないように工夫できないかなあ。 ◇この表現で読んだ人はその場面の映像が浮かぶかなあ。	○同意や意見をもらいたい部分を明確にさせる。 ○「1人で・友達と・先生と」の中から、学び方を自分で選ぶようにする。
や		②他者との交流により、考えを広げる。 ◇その情景を想像させたいなら、こっちの季語の方がいいんじゃないかなあ。 ◇この表現に変えたらもっとリズムが良くなるんじゃない。 ◇切れ字が使われていて読み手の感動がよく伝わる句だな。 ◇下五はこのままでいいんじゃない。読み手の想像が広がるし。 ③友だちの助言を参考にして俳句を完成させる。 ◇Bさんの考えを取り入れてみよう。 ◇Cさんから助言をもらった体言止めを使ってみよう。余韻が残る感じにできそうだし。	○小グループで俳句を評価する（句のどの部分がいいのか、理由をつけて話す）。 ○作者から出された話題（助言をもらいたい部分）について、俳句から受け取った感じ、表現の工夫などについて意見を交流する。 ○友だちの考えを否定しない（受け入れ、別の案を示す）。 ○友だちからの助言と自分の考えを整理し、より効果的な表現を吟味して俳句を完成させる。
展開		【期待される学びの姿】 自分の考えが分かりやすく伝わる俳句になるように、対話をとおして、より効果的な表現を選択している。	【具体の評価規準】 観点【思②】 ○意見交流で気づいた表現の工夫を自身の表現に生かし、より効果的な表現を選択し俳句を作っている。 (方法：ワークシート・俳句)
ま	10分	3. まとめと振り返りをする。	
終末		【まとめ】俳句をよりよいものにするためには、俳句に込めた意図に対して効果的だと感じる語句を選択することが大切である。	
		◇私は下五の部分がしっくりこなくて迷っていましたが、友だちから・・・とアドバイスをもらい、「○○」という表現に変えることで直接的な言葉を使わずに気持ちを表せるようにしました。	○数名の生徒の振り返りの内容を全体で共有し、本時の目標に沿ったことを積極的に認めるようにする。

【板書計画】

			(振り返り)	(まとめ) 俳句をよりよいものにするためには、俳句に込めた意図に対して効果的だと感じる語句を選択することが大切である。	⑤ ④ ③ ② ①	評価の視点	(めあて) 表現の仕方を吟味し、自分の俳句をよりよいものに仕上げよう。	俳句の創作教室
--	--	--	--------	---	-----------	-------	---	---------

【ICT活用計画】

教師による教材提示，学習の振り返り，定着状況の把握への活用

導入時に、これまで学習したことを視覚的に振り返ることができるように、電子黒板に表示する。

【見方・考え方を働かせて解く適用問題等の計画】

単元の終末では，見方・考え方を働かせて次の学習に取り組む

熊本県学力学習状況調査の過去問題

(令和6年度) 21番 22番 25番 26番